



全国学力・学習状況調査結果報告「前期課程」

教科に関する調査の結果

県・全国平均との比較

平均は、国語・算数・理科とも県・全国より高い結果となりました。しかし、本校は少人数のため、「平均」という観点からのみ学級全体の傾向をつかむことは難しく、児童一人ひとりの結果に目を向け、それぞれの課題を改めて確認し、学習改善や学習意欲の向上に努めていきたいと思ひます。

平均は、国語・算数・理科とも県・全国より高い結果となりました。しかし、本校は少人数のため、「平均」という観点からのみ学級全体の傾向をつかむことは難し

【本校と県・全国の平均正答率との比較表】

	県平均との比較	全国平均との比較
国語	◎	◎
算数	◎	◎
理科	◎	○

※平均を+5.0ポイント以上	◎
平均を0～+4.9ポイント以上	○
平均を0～-4.9ポイント	△
平均を-5.0ポイント以下	▲



国語

全体的によくできました。普段から教科書の内容をじっくりと読んでいる子供たちにとっては、今回のようにたくさんの文章を読み、必要な情報を読み取ることはとても大変でした。その中でも、県・全国平均を上回っていたのは、子供たちが日頃から多くの情報に触れ、語彙や知識を増やしていった結果だと考えられます。課題としては「文章の詳細まで読み解く力」が挙げられます。子供たちは、たくさんの文章から大まかな内容を把握することができています。一方で、設問に対してより詳細に、具体的に答える際に、必要な情報が抜け落ちてしまう場合があります。今後は、多くの文章に親しむとともに、情報の取捨選択をし、相手に必要な情報を伝達する力の育成も意識して指導していきます。

算数

県・全国平均と比較して、大きく差が開いたのは、①「四則の計算と式の意味」、②「倍数と約数」、③「データの整理」、④「概数の捉え方」、⑤「割合に関する問題」となります。①～③においては、平均を10%近く上回る結果となりました。このことから、知識や計算方法、データや事象の考察に関してはしっかりと定着していることがわかります。6年生の学習では、他学年で学習した内容を利用する場面が多いです。授業では、新たな単元に入る前に過去の学習内容を復習することを欠かさずに行っています。この結果を受けて、これからも引き続き復習の時間を確保していきたいと思ひます。④、⑤においては、平均を下回る結果となりました。一般的に苦手意識を持つ児童が多い分野で、後期課程でもその苦手を引きずる傾向があります。より丁寧な見直しをしていく必要があると思ひました。算数では、基礎的な知識を身につけた上で、日常の事象について見通しをもち、筋道立てて考えたり、説明したりする力を育てることが大きな目標です。授業の中で、自らが考え、発表や説明、教えあいなどの活動を通して算数の力を伸ばしていきたいと思ひます。

理科

全体的にはよくできましたが、領域別にはエネルギーを柱とする「光」に関する問題の平均が、県や全国から比べると低かったです。実験・観察の活動を今まで以上に充実させて、物事を論理的に考える力を付けていきたいと思ひます。また、図や表、資料からの読み取りに苦手意識を持つ子が多くいることがわかりました。他教科と関連させながら、これまで身に付けてきた技能を理科で活用できるように指導していきます。

児童質問紙に関する調査の結果



学校生活

『学校に行くのは楽しいと思いますか。』『自分と違う意見について考えるのは楽しいですか。』『友達と協力するのは楽しいと思いますか。』の質問に対して、肯定的な回答をした割合が、全国平均より高い結果となりました。行事や普段の生活を通して、友達と関わり合いながら、楽しく学校生活が送れていることがわかります。また、『人が困っているときは、進んで助けていますか。』『先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。』『困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。』の質問に対しても、肯定的に回答した子が多くいました。思いやりの心を持ち、先生方との関わりも良好であることがわかります。今年から、中高等部は教科担任制を取り入れました。これからも様々な先生と接して欲しいと思います。

一方で、『自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか。』の質問に、自信を持って「当てはまる」と答えた子が少なかったです。精神面の強化は、本校の課題でもあります。来年は、後期課程になります。「難」「辛」「苦」「困」を乗り越える体験や「粘り強くやり抜く」を体現できる行事や取り組みに、学校でも力を入れていきたいと思ひます。



学 習

様々な学習の場面で、タブレットなどの ICT 機器の効果的な活用を実感しています。教科で見ると、国語、理科とも、『好き。』『大切だと思う。』『将来、社会に出たときに役立つと思う』と回答した子は、全国平均とほぼ同じでした。算数は、全国平均より、15%ほど高く、『授業の内容がよくわかる。』『学習したことを、普段の生活の中で、活用できないか考えている。』という質問に対して肯定的な回答をした割合は、全国平均より約20%高い結果となりました。算数においては、IT や支援員による効果が表れたものと思ひます。また、『家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。』の質問も、全国平均より高いです。家庭で、学校から出された宿題、自主学習などに、まじめに取り組んでいることの表れです。ほとんどの子が1時間以上、勉強しています。これは、声かけ、励ましなどの支援によるものです。ご協力ありがとうございます。しかし、授業時間以外に平日2時間以上勉強しているこの割合が、県や全国は20%以上でしたが、本校はいませんでした。また、平日1日あたりのテレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯型、スマートフォンを使ったゲーム等）とスマートフォンで SNS や動画視聴が、それぞれ1時間以上と答えた子がほとんどで、これは、県や全国平均に比べても高くなっています。後期課程になると学習が難しくなり、「内容の定着が不十分になり、様々なところに影響が出てくる。」ということも本校の課題です。前期課程の段階から、ゲームや動画視聴、SNS の利用を自分自身で時間を管理しながら行う習慣を身に付けてほしいと思ひます。

地域・家庭

『今住んでいる地域の行事に参加していますか。』『地域をよくするために何をすべきか考えることがありますか。』に対して、肯定的な回答をした割合がどちらも70%でした。本校の児童が、地域社会と関わり、地域に支えられて学んでいることをうれしく思ひます。今後、とびうお学習や今年から始まったNIE（新聞を使った教育活動）を中心として、今まで以上に地域や社会に目を向け、地域貢献への意識をさらに高めていきたいと思ひます。

朝食の摂取、就寝時刻、起床時刻などは、県や全国とほぼ同じ結果で、正しい生活習慣が概ね定着していることがわかりました。家庭での規則正しい生活習慣が身につけていると、エネルギーを蓄え、学校でも元気に生活し、授業に集中して臨むことができます。引き続き、よろしくお願ひします。